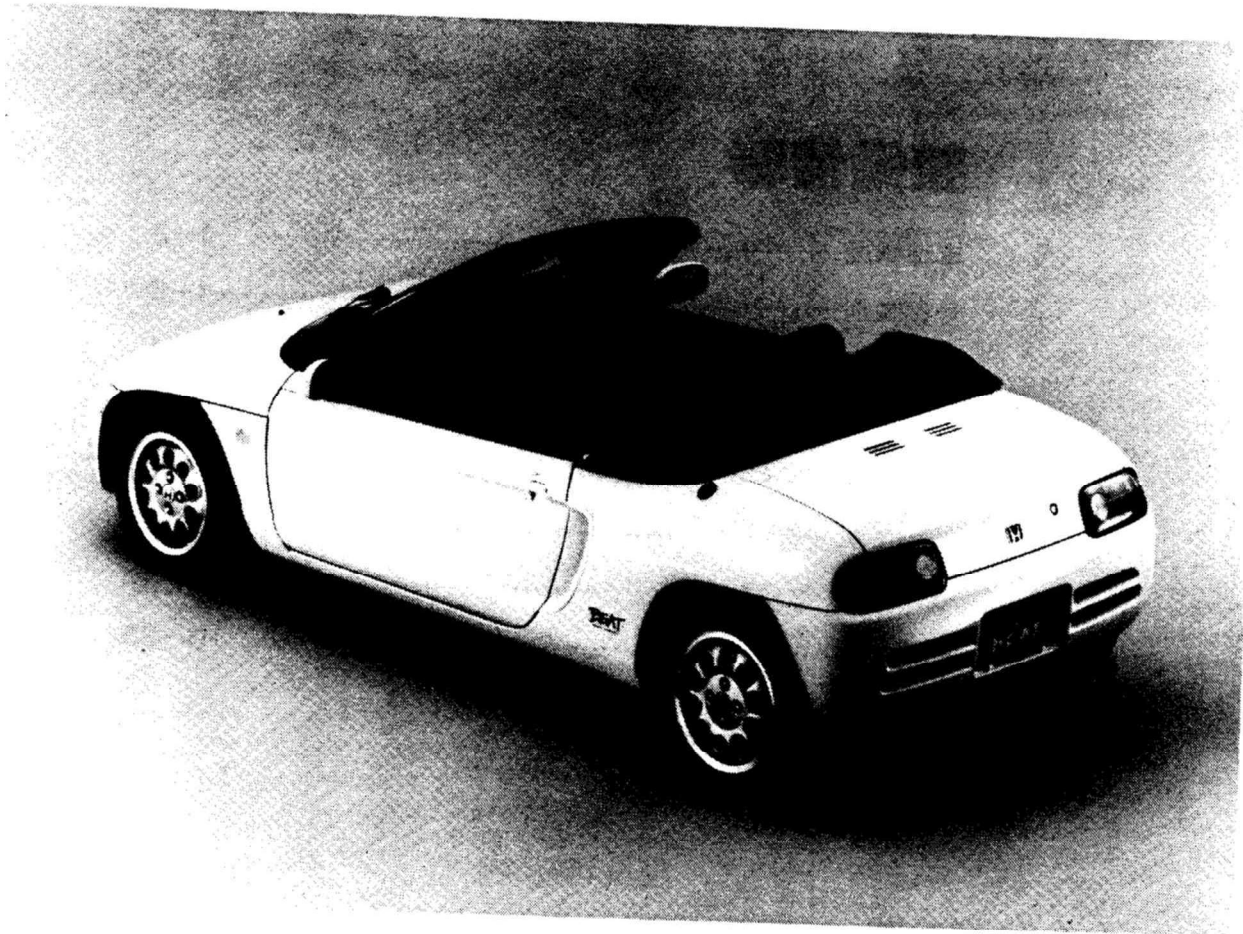


整備情報

車種構成	1-2
号機識別	1-3
リフト ポイント	1-4
ジャッキ アップ ポイント	1-5
けん引	1-7
作業上の注意	1-8
シンボル マーク	1-22
略語	1-23

車種構成

外観



類別仕様構成、主な装備

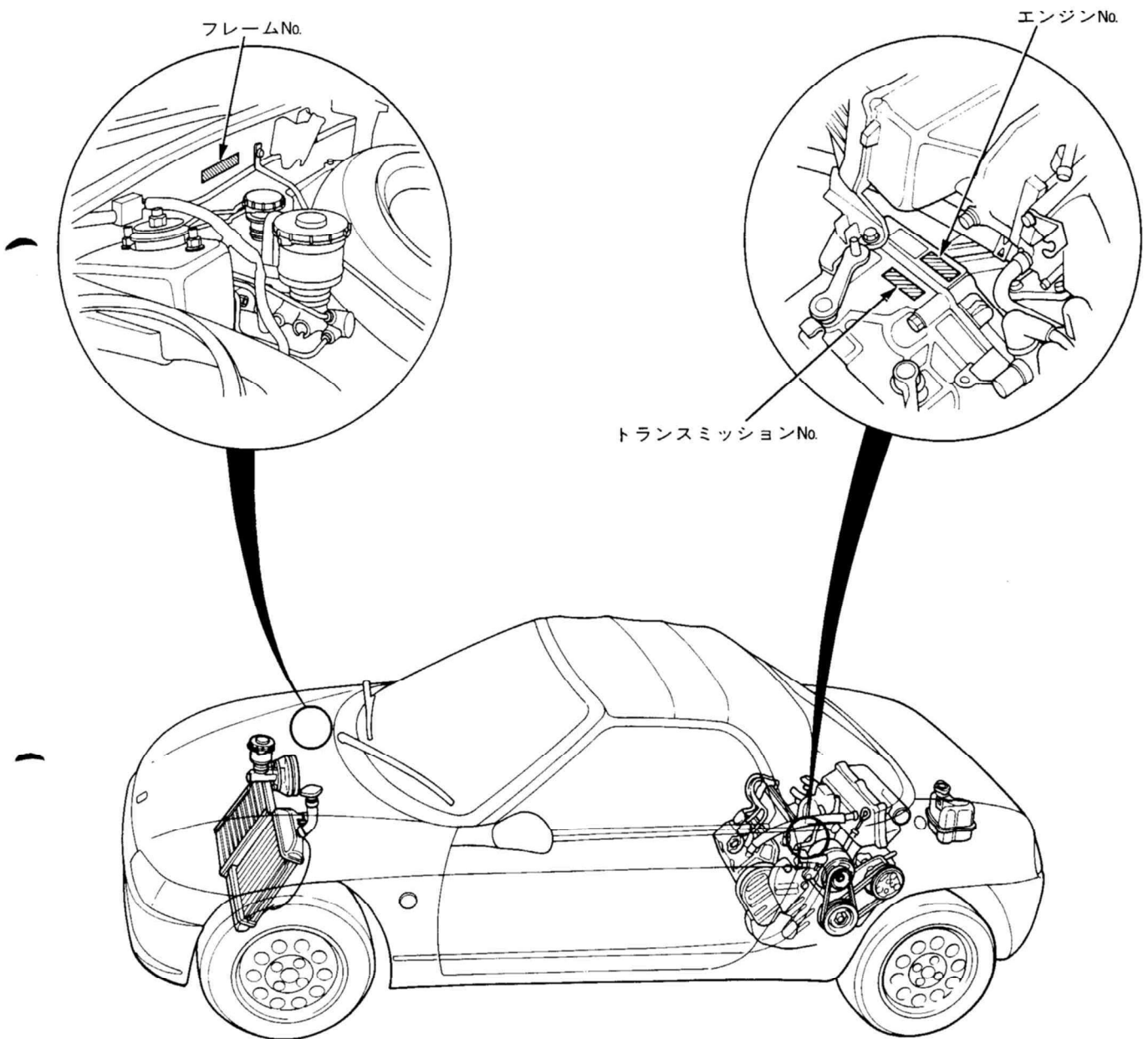
名称	ビート
車体形状区分	2ドア コンバーチブル
フレーム型式	E-PP1
エンジン型式	E07A
総排気量(cm ³)	656
キャブレション	PGM-FI
仕様、装備	トランスミッション
SRSエアバッグシステムタイプII	マニュアル5速
ハイマウントストップランプ*	○
リヤスポイラ*	○
マニュアルエアコンディショナ	○
ダブルホーン	○

○：標準装備。◎：装備車を設定。

*ハイマウントストップランプ内蔵式リヤスポイラ

号機識別

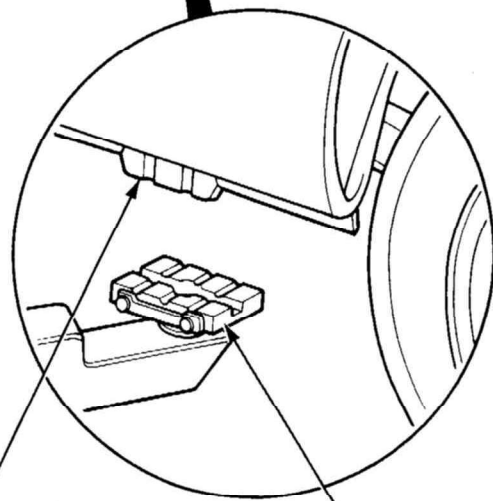
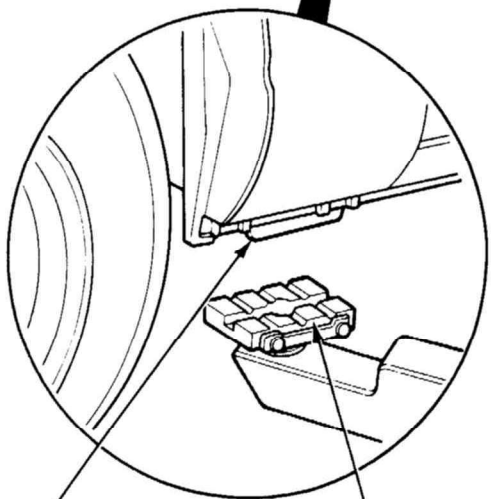
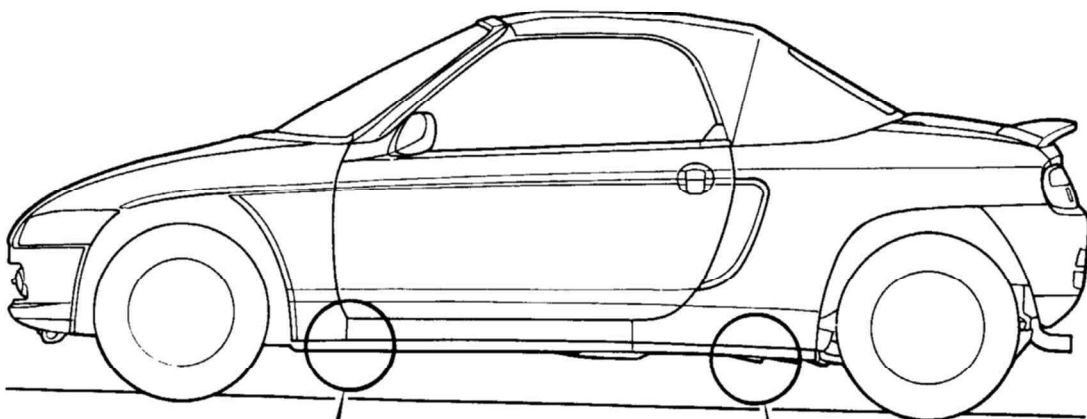
車名	車形区分	フレーム		エンジン		マニュアルトランスミッション
		型式	No.	型式	No.	No.
ビート	2コチ ド ン ブ ア ール	E-PP1	PPI-1000001~	E07A	E07A-6000001~	ZK-5000001~



リフト ポイント

注意

- ・指定した位置以外ではリフト アップしないこと。
 - ・二柱リフト等を使用する際、必ずリフトに付帯しているメーカーの取扱説明書を参照する。
 - ・リフト ブロックにラバー アタッチメント付きのものを使用し、ボディに傷をつけないようにする。
- ①図のように、各サポート ポイントにラバー アタッチメントを据え付ける。
 - ②リフトを数センチ上げ、車体を揺すってみてしっかり保持されていることを確認する。
 - ③車輪が浮くまでリフトを上げ、ラバー アタッチメントが各サポート ポイントを正確に固持しているかを確認する。



フロント サポート ポイント (フロント サイド シル補強部) リフト ブロック (ラバー アタッチメント)

リヤ サポート ポイント (リヤ サイド シル補強部) リフト ブロック (ラバー アタッチメント)

ジャッキ アップ ポイント

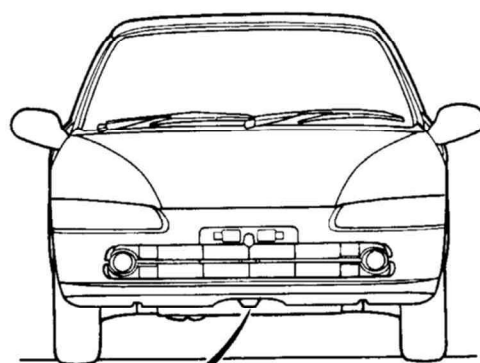
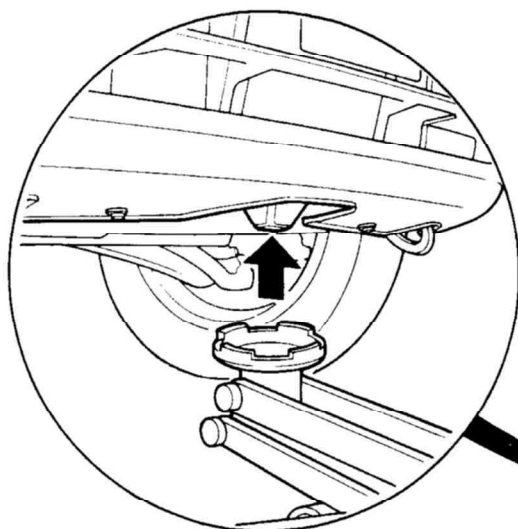
注意

- ・必ず車輪止めをする。
- ・ジャッキ アップ後、必ずリジッド ラックを使用する(1-6頁)。

注意 ジャッキ アップしたままでは、車両の下には入らないこと。

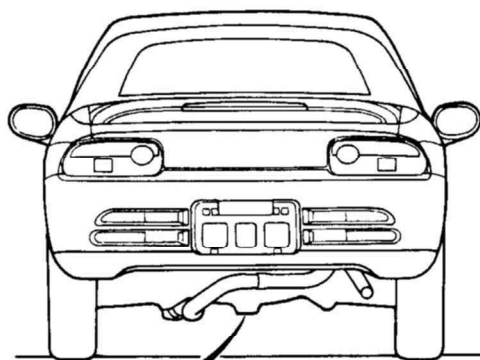
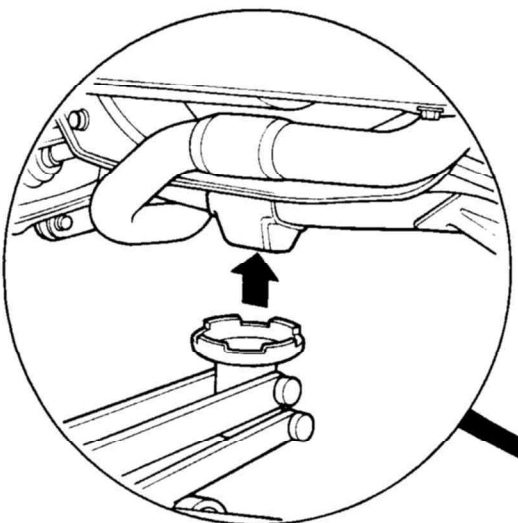
フロント

*パーキング ブレーキを忘れずにかける。



リヤ

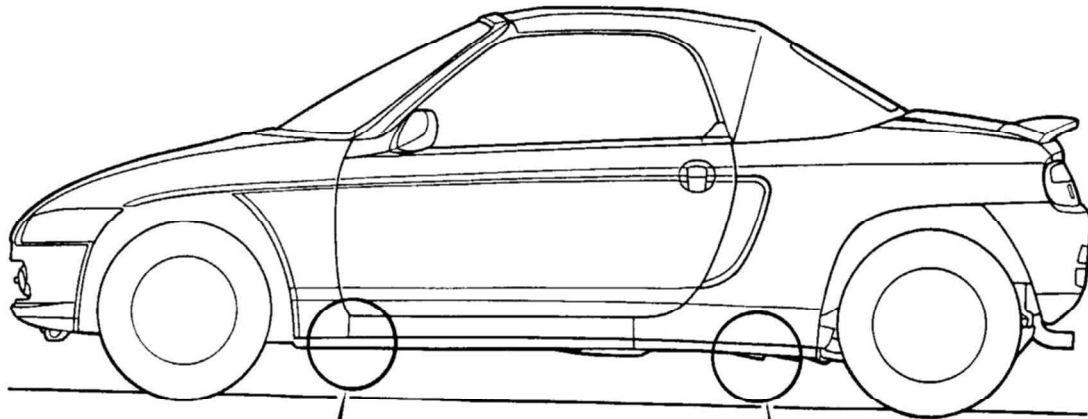
*必ずフロント ホイールに車輪止めをする。



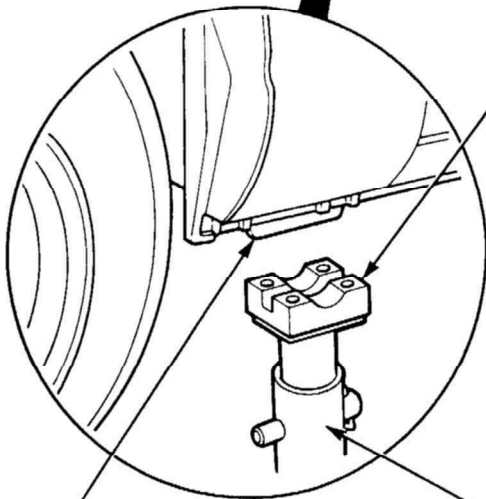
ジャッキ アップ ポイント

注意

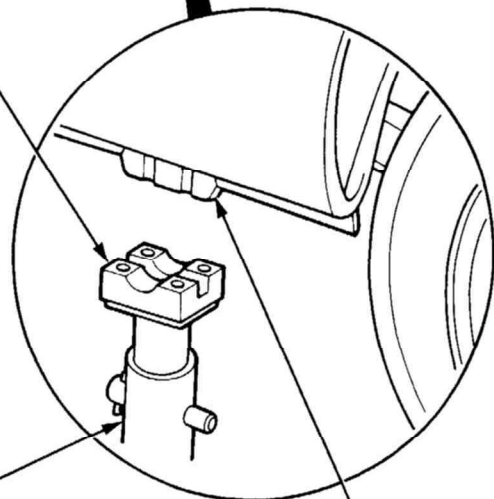
- ・リジッド ラックは、ラバー アタッチメント付きのものを使用し、ボディに傷をつけないようにする。
- ・ラバー アタッチメントが付いていない場合は、フロントおよびリヤ サポート ポイントとリジッド ラックの間にラバー パッドをはさんでボディに傷をつけないようにする。
- ・リジッド ラックのラバー アタッチメントまたはラバー パッドは、フロントおよびリヤ サポート ポイントに当てる。サポート ポイント以外にはボディのどこの個所にも当ててはいけない。



ラバー アタッチメント



フロント サポート ポイント
(フロント サイド シル補強部)



リジッド ラック

リヤ サポート ポイント
(リヤ サイド シル補強部)

けん引

- 可能ならば、四輪または駆動輪(後輪)を持ち上げた状態で運搬またはけん引する。

注意

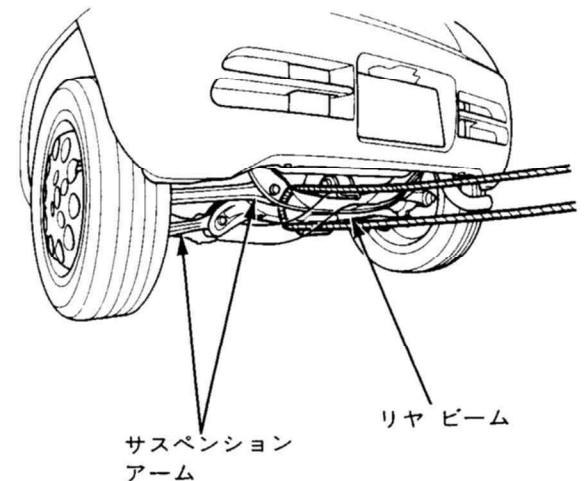
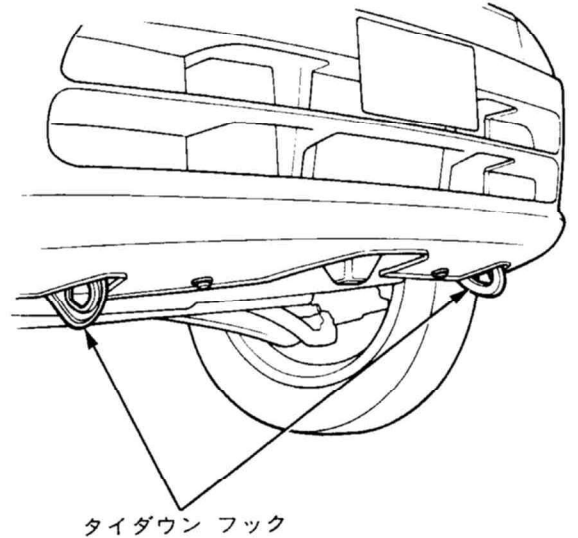
- ・車両を持ち上げるために、バンパを使ってはいけない。
 - ・タイダウン フックにロープ等を掛けて車両を固定する。
- 四輪または駆動輪(後輪)が接地した状態でけん引する場合は、けん引ロープをタイダウン フックに付ける。

注意

- ・けん引時は、パーキング ブレーキを解除する。
 - ・けん引ロープは、タイダウン フック以外に掛けてはいけない。
 - ・タイヤ、ホイールまたはドライブシャフトが、ボディまたはフレーム等に接触しないことを確認する。
 - ・トランスミッションをニュートラルの位置にする。
 - ・イグニッション スイッチを“ACC”の位置にする。
 - ・速度30km/h、距離80kmを越えてけん引してはいけない。
- 動けなくなった時(緊急時)
脱輪などして後方に引き出す場合は、リヤ ビームにロープを掛けて車両を引き出す。

注意

- ・リヤ ビームにロープを掛けて引き出した場合は、終了後、必ずリヤ ホイール アライメントの点検、調整を行う(12章参照)。
- ・サスペンション アームなどにロープをかけて引き出してはいけない。
- ・リヤ ビームにロープを掛けて、他車をけん引してはいけない。



作業上の注意

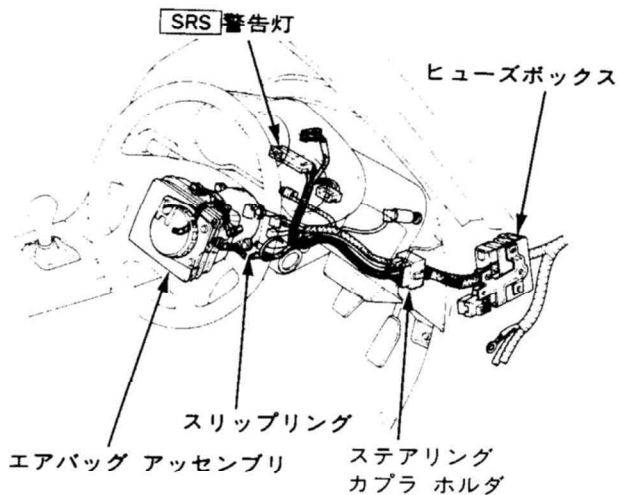
この機種特有の注意(SRSエアバッグ システム—タイプII)

全般的な注意事項

SRSエアバッグ アッセムブリは、SRSユニット(衝撃感知用センサ2個内蔵)インフレーター、エアバッグが一体となり、ステアリング ホイール中央にセットされている。

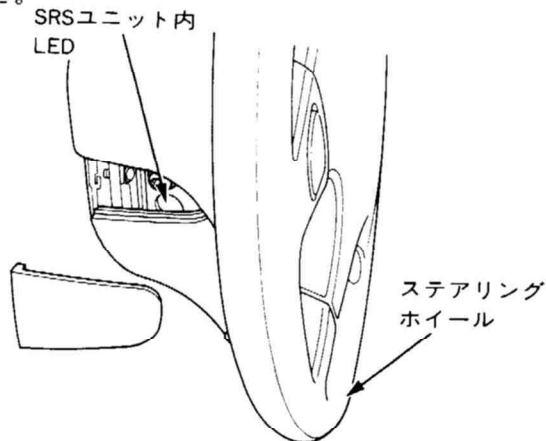
従って、衝突等によりエアバッグが作動した場合、又は故障等により交換する場合は必ずエアバッグ アッセムブリで交換する。

又衝突等によりエアバッグが作動した場合、及び横方向からの衝突等でエアバッグが作動しない場合も含めエアバッグ アッセムブリ、スリップリング、SRSワイヤハーネス(黄色の保護チューブでカバーされている)及びステアリング ホイールを確認し損傷がある場合は交換すること。



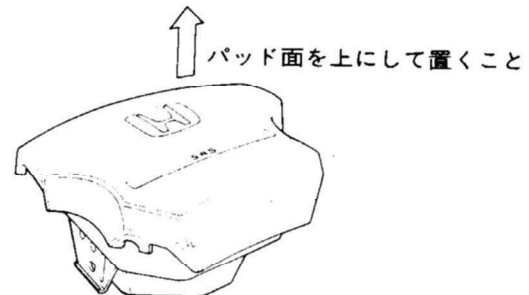
●作業完了後は、カプラの結合状態確認のため下記内容を必ず確認すること。

- ・イグニッション スイッチをONし、約6秒後に **SRS警告灯**が消灯すること。
- ・イグニッション スイッチをONした状態でSRSユニット内LEDが1回点滅(正常表示)していること。



誤作動防止のための注意事項

- ①エアバッグ アッセムブリの分解は絶対に行わない。
- ②エアバッグ アッセムブリを置いておくときは、必ずパッド面を上に向けて置くこと。
※パッド面を下に向けて置くと、万一エアバッグ アッセムブリが作動した場合エアバッグ アッセムブリの金属部が体に当たったりして危険です。
- ③エアバッグ アッセムブリは85℃以上の高温環境に置かないこと。
- ④SRSエアバッグ システムの点検は必ずデジタル サーキット テスタを使用すること。
※アナログサーキット テスタを使用するとエアバッグ アッセムブリが誤作動する原因になる。
- ⑤SRSエアバッグ システムに関連するメンテナンスを行う時はイグニッション スイッチをOFFにし、バッテリーのマイナスとプラス ケーブルを取り外して、3分以上経過後作業を開始すること。
- ⑥ステアリング関連の整備を行う場合は、SRSシステムに強い衝撃を与えないよう充分注意すること。



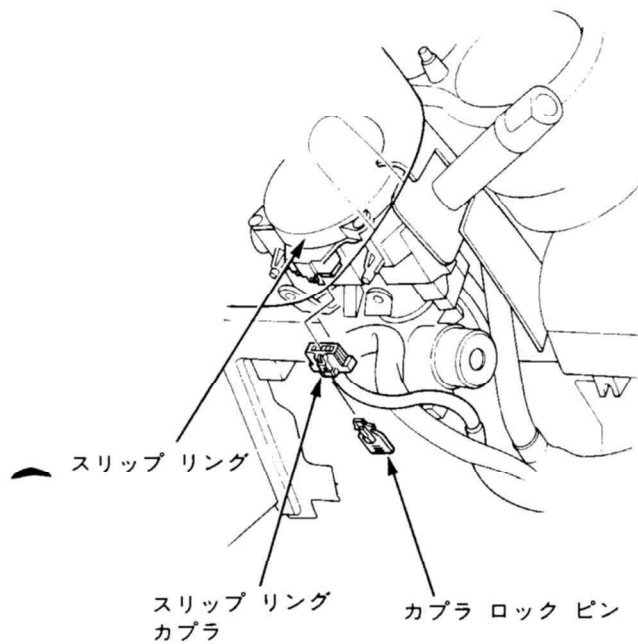
性能保持のための注意事項

- ①エアバッグ アッセムブリは85℃以上の高温にさらしたりオイル、グリス、洗い油、水等を付着させないこと。
(内部が損傷し信頼性低下につながる)
- ②SRSエアバッグ システムの部品を交換する場合は必ず新品の部品を使用すること。
- ③SRSエアバッグ システムの部品を取付ける前には、落したり取扱いが悪かったりして、へこみ、割れ、変形等がないか確認し、もし異常がある場合は新品と交換すること。
- ④SRSシステム専用スリップリングは分解、給油できない、異常の場合は、必ず新品と交換すること。
※エアバッグ アッセムブリは、この機種専用です。交換する場合は、適用車種を確認し、取付けること。

ステアリング コラムの脱着

注意

- ①イグニッション スイッチをOFFにし、バッテリーからマイナス、プラス ケーブルを取り外し、3分以上経過後、作業を開始すること。
 - ②作業時はステアリング ホイール(SRSエアバッグシステム)に強い衝撃を与えないよう、充分注意すること。
 - ③ステアリング ホイールを取付けたままステアリング コラムを脱着する場合は、ステアリング ロックがかかった状態にし、ステアリング ホイールが回転しないようにする。
- ステアリング コラムを、取外す前に、スリップ リングとキャビン ハーネスの接続を外す。
※スリップ リング カプラはカプラ ロック ピンを外した後にカプラの接続を外すこと。(16-129頁参照)



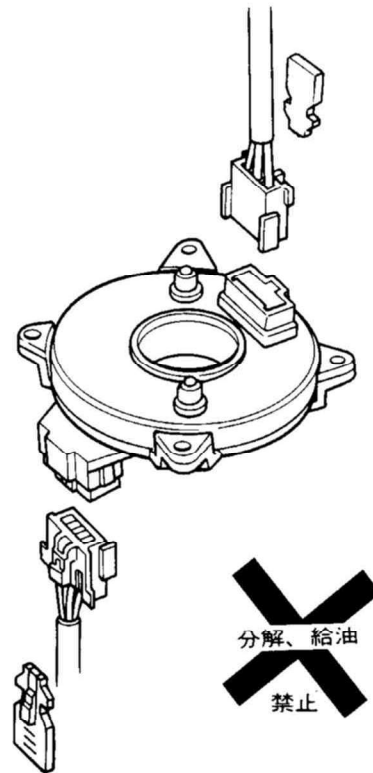
注意

- 作業完了後は、カプラ ロック ピンは廃却する。
- 作業完了後は、カプラの結合状態確認のため下記内容を必ず確認すること。
 - ・イグニッション スイッチをONし、約6秒後に **SRS** 警告灯が消灯すること。
 - ・イグニッション スイッチをONした状態でSRSユニット内LEDが1回点滅(正常表示)していること。

スリップ リング

注意

- ①スリップ リングは分解、給油はできない。従って異常の場合は必ず新品と交換すること。
- ②スリップ リングはSRS装着車専用です。交換時は必ず専用の純正部品を使用すること。



作業上の注意

—この機種特有の注意(SRSエアバッグ システム—タイプII)—

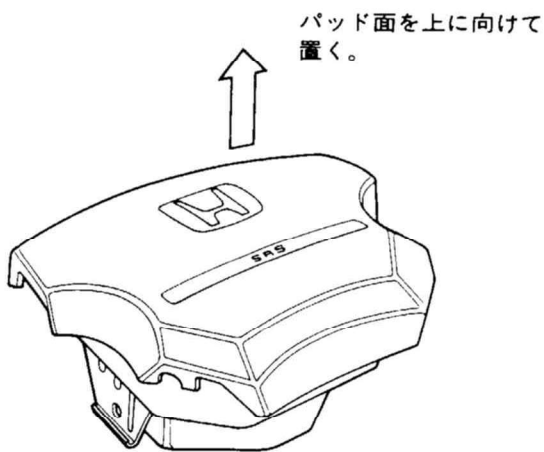
エアバッグ アセンブリ

エアバッグ アセンブリは絶対に分解してはならない。

また一度作動すると再使用はできない。

注意

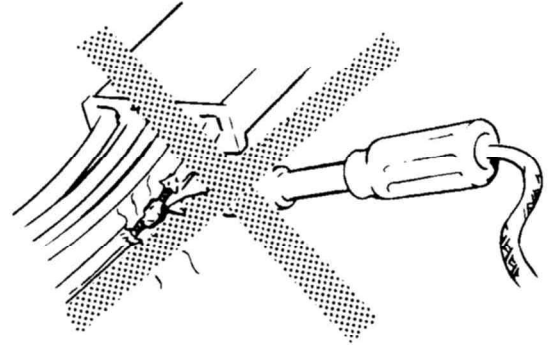
- ①エアバッグ アセンブリはパッド面を上にして保管すること。
パッド面を下に向けて置くと、万一作動した場合エアバッグ アセンブリの金属部が体に当たったりして危険です。
- ②エアバッグ アセンブリは85°C以上の高温環境に置かないこと。
熱によりエアバッグ アセンブリが作動したり、SRSユニット内部が劣化し、信頼性が低下することがある。
- ③エアバッグ アセンブリはオイル、グリース、洗油、水などが付着する恐れのない、平らな場所に保管すること。
エアバッグ、SRSユニット内にオイル、グリース、洗油、水が入ると、内部が損傷する恐れがあり、システムの信頼性低下につながるため取扱いは充分注意する。
- ④エアバッグ アセンブリの取付けに不具合があると、エアバッグ システムの機能が損なわれることがある。取付けは規定トルクで確実に行うこと。



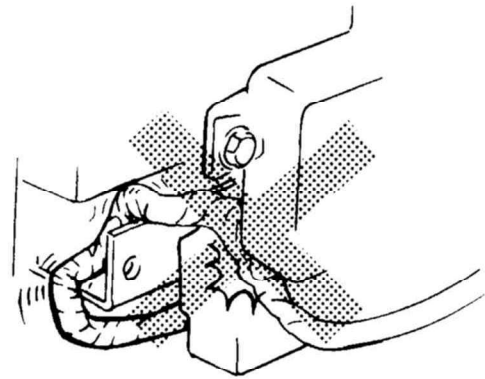
ワイヤリング

- ①SRSエアバッグ システムのワイヤ ハーネスに損傷、切損等が生じた場合、ハンダ等の修理を行わず、必ず新品と交換すること。

★SRSエアバッグ システム用のワイヤ ハーネスは黄色の保護チューブが巻かれており、他のシステムのワイヤ ハーネスと区別している。



- ②ワイヤ ハーネスが噛込んだり、他の部品と干渉したりしないように取付けること。



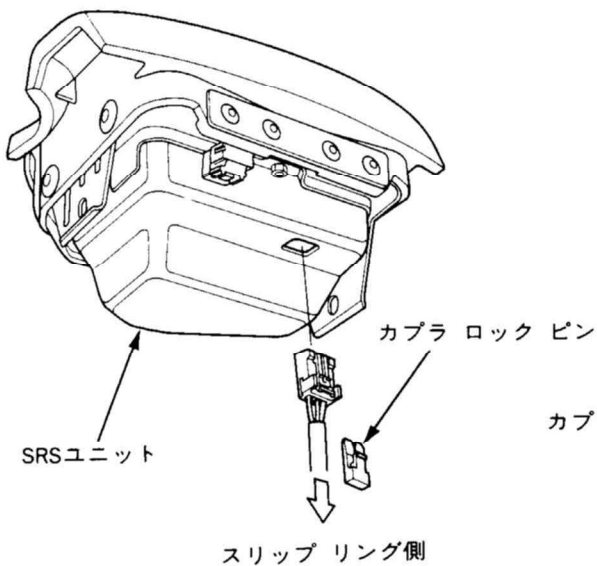
- ③アース部は汚れ、塗装の付着がないことを確認して取付けること。
アース不良はSRSエアバッグ システムの作動不良の原因となるので十分注意すること。

カブラ ロック ピン

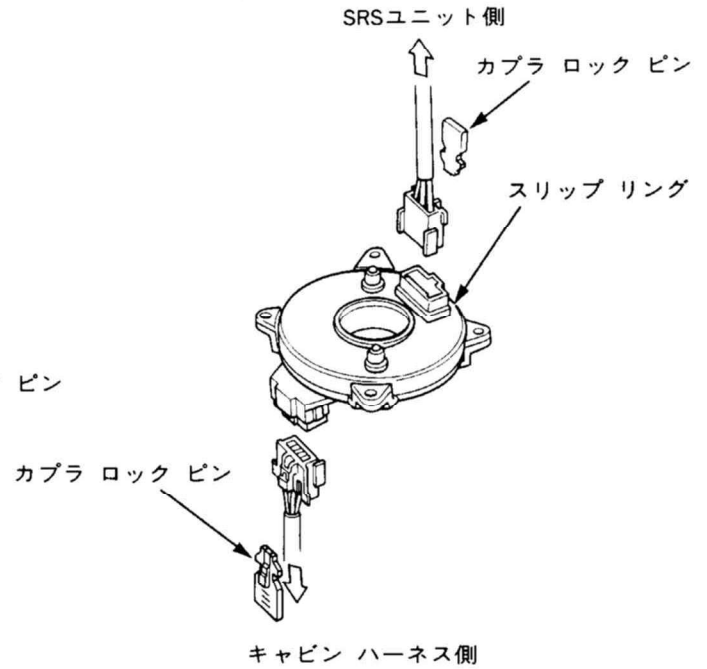
SRSユニット 5Pカブラ及び、スリップ リング 5Pカブラには、カブラ結合状態の工場出荷品質保障を目的とした、カブラ ロック ピンが取付けられている。

従って各カブラの結合を外す場合は、最初にカブラ ロック ピンを取外し、次にカブラ ロックを解除しながらカブラの結合を外す必要がある。

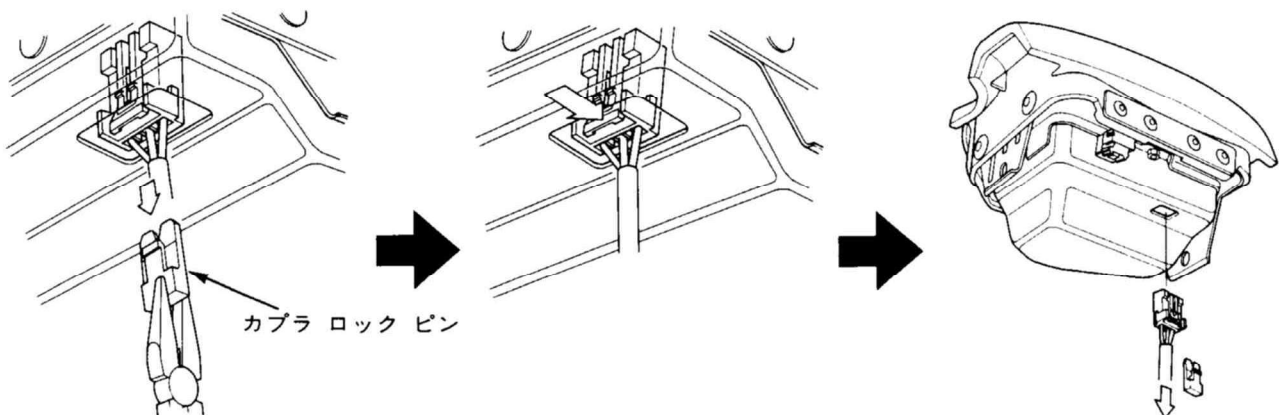
SRSユニット 5Pカブラ



スリップ リング 5Pカブラ



- ①カブラ ロック ピンをラジオ ペンチ等で抜きとる。
- ②カブラ ロックを解除しながら、カブラを抜き取る。



注意

- 作業完了後は、カブラ ロック ピンは廃却する。
- 作業完了後は、カブラの結合状態確認のため下記内容を必ず確認すること。
 - ・イグニッション スイッチをONし、約 6 秒後に[SRS]警告灯が消灯すること。
 - ・イグニッション スイッチをONした状態でSRSユニット内LEDが1回点滅(正常表示)していること。

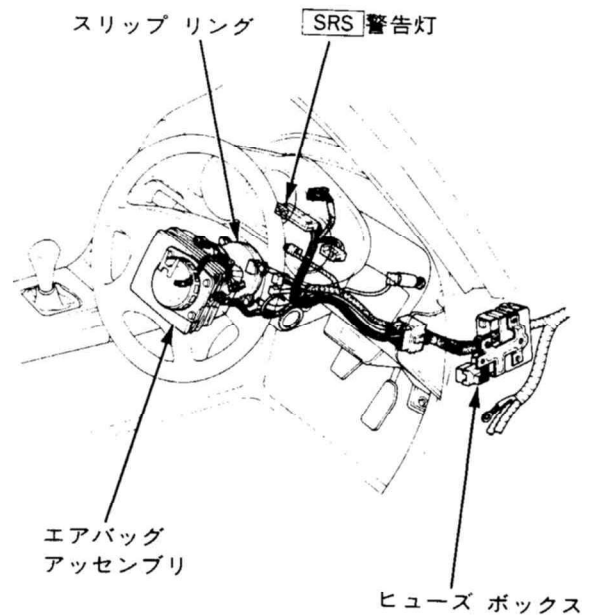
作業上の注意

この機種特有の注意(SRSエアバッグ システム—タイプII)

板金塗装修理上の注意事項

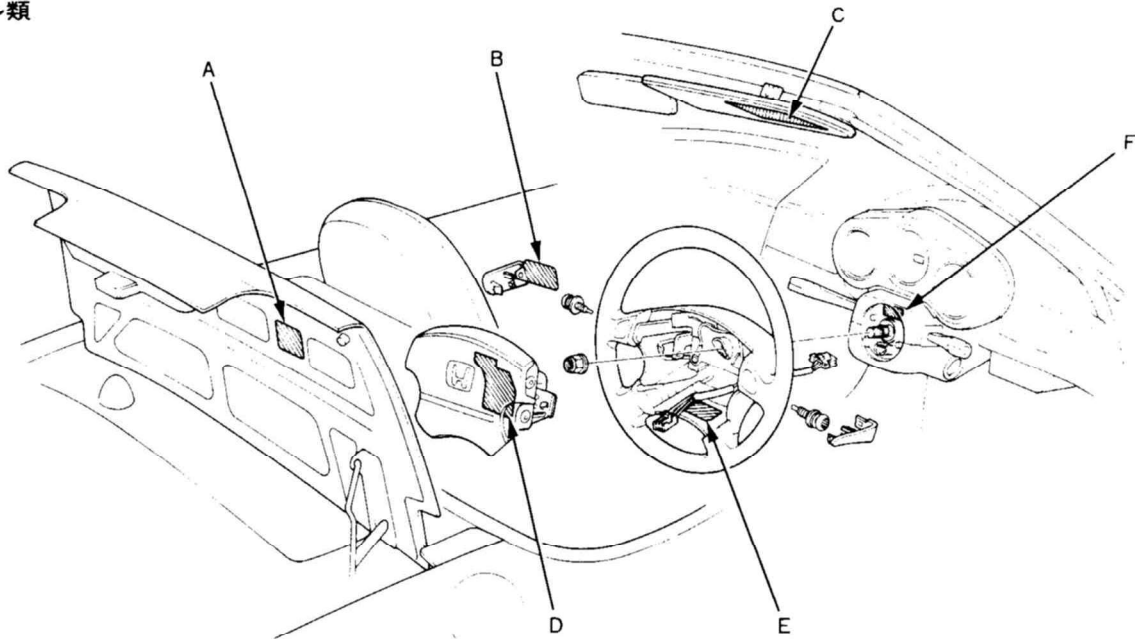
★SRSエアバッグ関連部品取付け付近の板金塗装修理を行う場合は、下記項目に注意する。

- ①ハンドル中央部にはSRSユニット(衝撃感知用センサ)インフレーター等が、取付けられています。
ステアリングまわりの修理を行う場合はハンマ等で強い衝撃を与えたり、高熱を与えないよう十分注意すること。
- ②インストルメント パネル裏側にはSRSエアバッグワイヤハーネスが通っている。(SRSエアバッグワイヤハーネスは黄色の保護チューブが巻かれている。)この部分の修理を行うときは、ハーネスに損傷を与えないよう十分注意すること。
- ③SRSエアバッグ関連部品付近の塗装の乾燥時には85度以上の高熱を与えないこと。
- ④衝撃を与えたり、高熱を与えたりする場合は、あらかじめ部品を取外して作業を行うこと。
- ⑤SRSエアバッグ関連の部品に外傷、変形がある場合は、必ず新品に交換すること。



- ⑥SRSエアバッグ システムが取付けられている付近の板金修理を行った場合は、最寄りのホンダSRS車販売取扱店でSRSエアバッグ システムの機能点検を必ず行うこと。

ラベル類



A: トランク リッド

注意 **SRS**

この車はSRS(エアバッグ)装備車です。
指定以外の電気テストを用いての回路診断は行わないでください。
回路に手を加えたりカプラを外すとSRSが不意に作動したりシステムの正常な作動が妨げられる場合があります、重大な傷害の原因となります。
ガス発生器の廃棄は必ずホンダの販売店に相談ください。

B: メンテナンス リッド

注意 **SRS**

SRSメンテナンスは、イグニッションスイッチを切ってから行なうこと。

CAUTION

ATTENTION

E: ステアリングホイール

注意 **SRS**

- SRSメンテナンス時はサービスマニュアルを参照すること。
- REFER TO THE SHOP MANUAL
- SE REPORTER AU MANUEL D'ATELIER
- WERKSTATT HANDBUCH LESEN
- LEES HET WERKPLAATS HANDBOEK

D: SRSユニット

注意 **SRS**

SRS(エアバッグ)の不意の動作による事故や傷害を防ぐために次のことを守ってください。

- 取扱い、保管、廃却はホンダサービスマニュアルを参照してください。
- 分解したり、衝撃を与えたりしないでください。
- 乾燥したクリーンな場所にパッド面を上にして保管してください。
- 指定以外の電気テストを用いて回路診断は行わないでください。
- 落としたり、濡らしたりしないでください。
- 高温となる場所に保管しないでください。
- SRS(エアバッグ)ユニット固定用のネジは他のネジと交換しないでください。

C: サンバイザ

この車には運転席用SRS(エアバッグ)が装備されていますので次の点をお守りください。

■SRSはシートベルトの補助装置ですのでシートベルトは必ず着用してください。

■走行中にSRS警告灯が点灯した場合は必ず販売店で点検を受けてください。

F: スリップ リング

SRS

注意

CAUTION

ACHTUNG

ATTENTION

WAARSCHUWING

分解、給油禁止

REFER TO THE SHOP MANUAL

WERKSTATT HANDBUCH LESEN

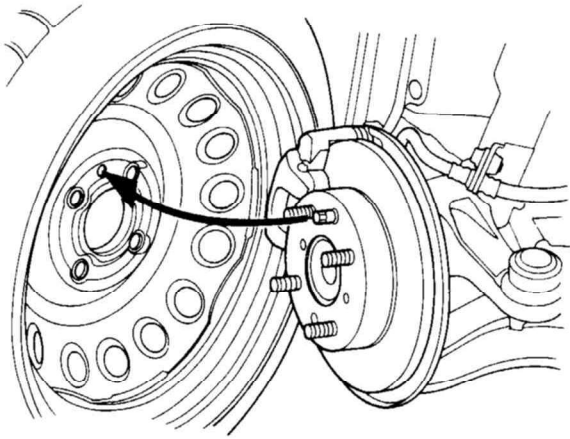
SE REPORTER AU MANUEL D'ATELIER


LEES HET WERKPLAATS HANDBOEK

作業上の注意

この車特有の注意

- ソフト トップを採用しているため、洗車する場合は次のことに注意する。
 - ・自動洗車、スチーム洗車および高圧洗車は、絶対に行わない。
 - ・ソフト トップとウインド、ドア ガラス等の合わせ目付近にホース等で直接水をかけないこと。
- 前後輪に異なるサイズのタイヤを装着しているため、タイヤ ローテーションを行わないこと。
- 前輪のタイヤ取付け面には、後輪を取付けられないようにピンがある。前輪を取付ける時はピンを前輪の穴に合わせて取付けること。



- 点火プラグはISO(国際標準化機構)規格品を使用している。
*  のマークがついている。

使用プラグ

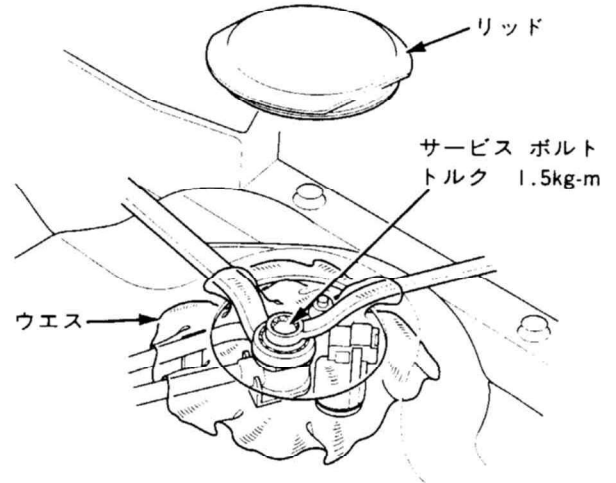
メーカー	点火プラグの型式
NGK	* BKR6E-11 BKR7E-11
ND	* K20PR-U11 K22PR-U11

* : 標準装備

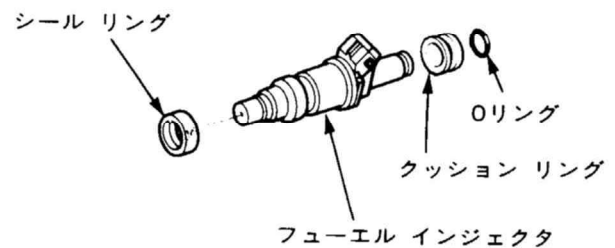
- ヘッドライトを点灯して作業する場合、ヘッドライトは点灯すると高温になるため、レンズ全面を覆わないこと。

●PGM-FIの燃料配管系の脱着時

- ・燃料配管系の脱着時はフューエル フィルタ上部のサービス ボルトをゆるめて、燃圧を抜いてから行うこと。



- ・燃料配管系の脱着および交換時は、専用ワッシャ、クッション リング、Oリングおよびシール リングを必ず交換すること。
- ・Oリングおよびシール リングは必ずオイル(ホンダ ウルトラ-U)を塗布してから組付けること。ブレーキ液、ラジエータ液および植物系またはアルコール系の油脂の塗布は絶対に行わないこと。



- ・高圧燃料ホースのフレア ジョイント部組付け時には、ジョイント部を洗浄してから締付けること。
- ・取付け後、IG SWをON(スタータは絶対に回さない)にするとフューエル ポンプが約2秒間作動して高圧燃料配管系の燃圧が上昇する。この動作を2~3回繰返して燃料系統の各部に燃料漏れがないか点検する。

- アマチュア無線機を搭載する場合PGM-FIのコントロールユニットおよびその配線は、外部からの妨害電波に対し誤作動しないように配慮されているが、非常に強力な電波が入った場合、コントロールユニットが誤作動することもある。コントロールユニットの誤作動を防ぐために下記内容に注意すること。
 - ・アンテナおよび無線機本体は、コントロールユニットより20cm以上離すこと。コントロールユニットの取付け位置は本マニュアル(60SS100)16章のリレー/コントロールユニット配置図を参照のこと。
 - ・アンテナ フィーダ線、同軸ケーブルは配線類と平行して長く引き廻すのは避け、配線類と交差する場合は直角になるようにすること。
 - ・出力の大きい無線機は搭載しないこと。(車両への搭載は10Wまでとすること)

- 液体パッキンの使用を指定している個所には必ず指定液体パッキン：ホンダ純正液体パッキンI216を使用すること。
使用方法は液体パッキンの取扱説明書に従って行う。

塗布前

- ・液体パッキン面はきれいに清掃する。
- 注意** パッキン面に傷を付けないこと。
- ・パッキン面を脱脂する。

塗布時

- ・パッキン面に液体パッキンを切れ目なく、均一に塗布する。
- ・塗布位置はパッキン中央、ホルト周囲は、オイル等が漏れないよう内側に塗布する。
- ・液体パッキンは雌ネジ加工のない面の一方向に行う。
- ・Oリングの溝には液体パッキンを塗布しないこと。

塗布後

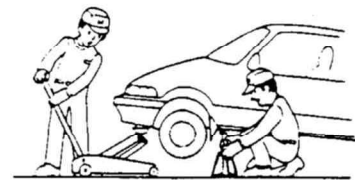
- ・塗布後20分以上放置した場合は組付けないこと。放置した場合は一度はがし、再度塗布し直すこと。
- ・オイルの注入は、組付後30分以上経過後に行うこと。

一般

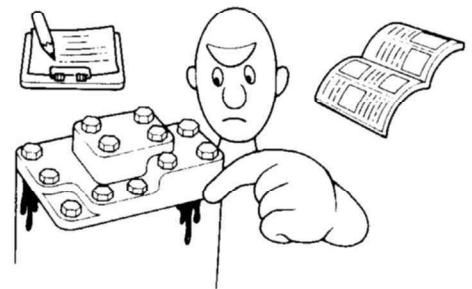
- 車両を保護する。
 - ・塗装面やシートなど汚損、損傷させないように必要に応じて作業カバー(フェンダカバー、シートカバー、フロアカバー、ハンドルカバー等)を使用する。



- 安全な作業をする。
 - ・車両前部または後部のみをジャッキアップする場合は、必ず車輪止めをすること。
 - ・車両をジャッキアップした場合は、必ずリジッドラックを所定の位置にすること(1-6頁)。
 - ・2人以上で行う共同作業の場合は、お互いの安全を確認しながら行うこと。



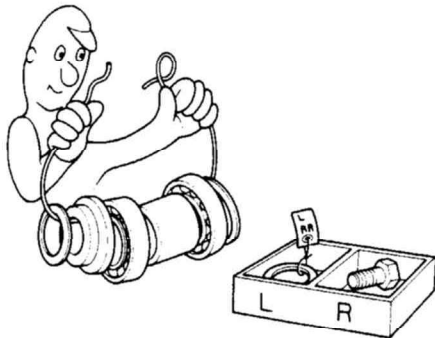
- ・エンジンを運転しての作業は換気に十分注意すること。
- 取外し、分解について正確な作業をする。
 - ・不具合個所の確認と同時に、原因を究明し、取外し、分解の必要があるかを把握した後、マニュアルで示した手順で作業をすること。



作業上の注意

一般

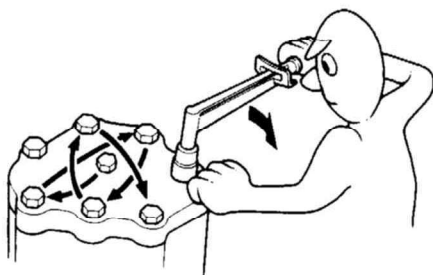
- ・取外し、分解する場合は、あらかじめ正規の組付け状態を確認してから始める。
- ・一つ一つの部品を取外すごとに、その部品の取付いていた状態、変形、破損、傷の有無などを点検すること。
- ・部品点数の多い箇所および類似品、左右同一部品等を分解する場合、組立時に混同しないよう整理しておくこと。



- 専用工具を必要とする作業には、必ず使用する。
- ・他の工具で代用して作業を行うと部品の破損、怪我等の恐れがあるので専用工具の使用を指示している作業には必ず使用すること。



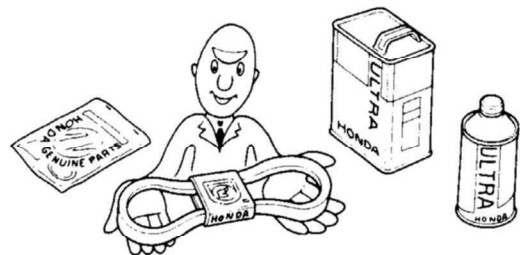
- 定められた整備基準を守ること。
- 締付けトルクについて
- ・ボルト、ナット、ビス類の締付けは、径の大きいものから小さいものへ、内側から外側へ対角に指定の締付けトルクで締付けること。



- 交換部品について
- ・ガスケット、パッキン、Oリング、割ピン、ロックワッシャ、セルフロックナット等は、分解時には新品と交換する。



- 部品について
- ・部品、油脂類は、必ずホンダ純正部品、または推奨品を使用すること。



- ・再使用する部品は必要に応じて詳細な点検、測定を行うこと。

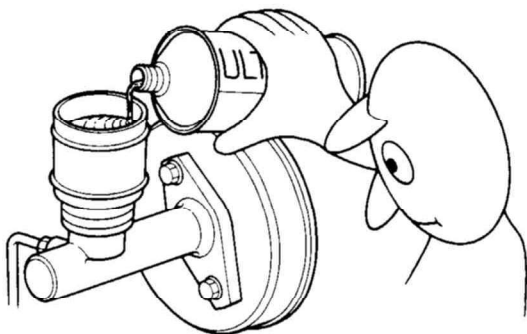
- 油脂類について
- ・組立、取付けには指定箇所(4-2頁または該当する章の展開図、分解、組立の頁を参照)に指定油脂を塗布すること。



- ・再使用する各部品は十分な清掃、洗浄を行うこと。

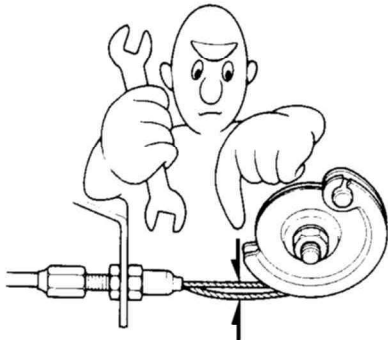
●ブレーキフルードおよびブレーキ関連部品について

- ・ブレーキフルード補給時に、ゴミや水を混入させないこと。
- ・化学変化を防止するため、銘柄の異なるブレーキフルードは再使用しないこと。
- ・抜き取ったブレーキフルードは再使用しないこと。
- ・ブレーキフルードは、塗装面を傷めるので、部品類に付着させないこと。
- ・ブレーキフルードの流出を防ぐため、ホース(またはパイプ)のジョイント部をカバーしておくこと。
- ・分解した部品は、ブレーキフルードで洗浄し圧縮空気等により各ポートの通気を確認すること。
- ・分解した部品は、ゴミやホコリが付かないよう整理しておくこと。
- ・各部品にゴミやホコリが付いていないことを確認の上、組付け作業を行うこと。
- ・指定されている部品は必ず交換すること。



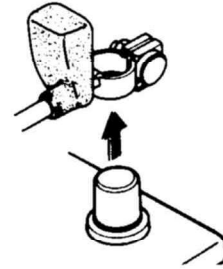
●ゴム、チューブ類について

- ・ゴム、チューブ類にガソリン、オイルが付着すると変質する恐れがあるので付着させないこと。付着した場合は、すばやくふき取ること。
- 組立後は、各部の締付け、作動および配管状態、クランプ位置を必ず点検すること。

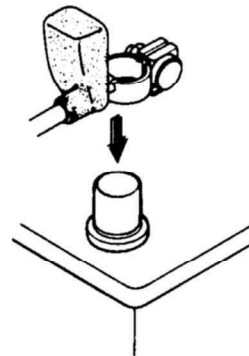


電気系統

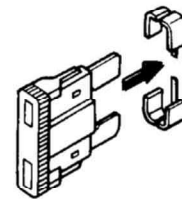
- ・作業の前には、必ずバッテリーの⊖端子を外すこと。



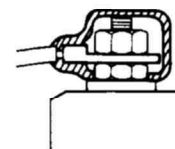
- ・作業の終了後は、各部の接続、固定、通しかたを再確認する。
- ・バッテリーを外してあったときは、⊕端子を先に接続する。



- ・端子の接続後、端子にグリースを塗布すること。接続前にテーパ部には塗布しないこと。
- ・カバーは、完全に端子にかぶせること。
- ・ヒューズが溶断した場合は、原因を調べて修理してから、必ず指定容量のヒューズと交換すること。



- ・カバー類は、作業終了後、確実に端子にかぶせること。

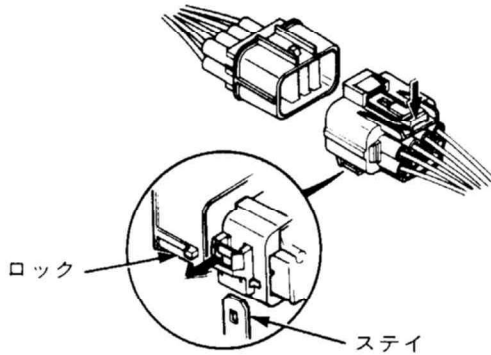


作業上の注意

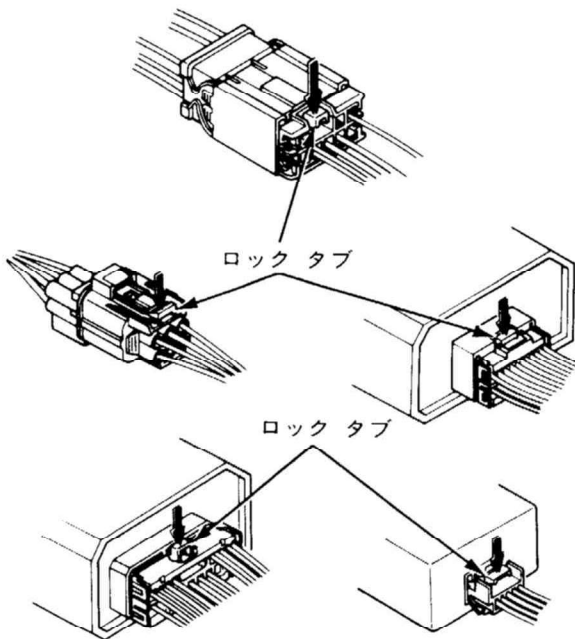
電気系統

カブラを外すとき、または、接続するときは、以下に注意して作業を行うこと。

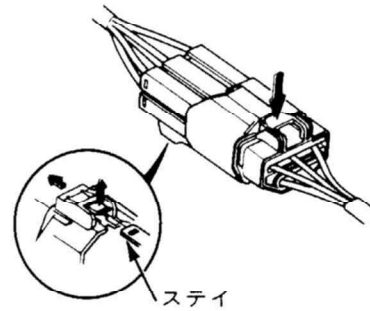
- ・ 1Pのコネクタを除いて、すべて押し下げタイプのロック付きカブラである。したがって、接続を外すときは、ロックを外してから作業すること。
- ・ ステイに取付けられているタイプのカブラの場合、ステイとカブラの取付け部分に、引き上げタイプのロックを使用している。このタイプのカブラの中には、ステイから取外さないと、接続を外せないタイプがあるので、カブラの形状をよく見きわめて作業すること。
- ★ 2重ロック式のステイ取付けタイプは、先にステイから取外してからカブラの接続を外す。



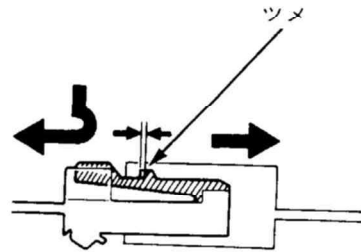
★カブラはロック タブを押して取外す。



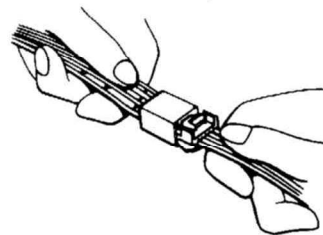
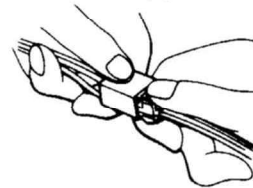
★ステイから取外す時はロック タブを引き上げる。



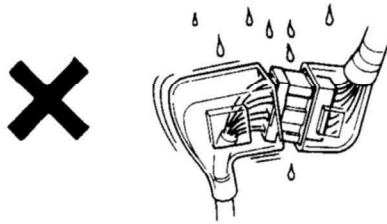
★ロック解除は、一度カブラを軽く押し込み(ロック部にクリアランスをもたせる)、ツメの動きを良くしてからロック タブを押してカブラを外す。



- ・ カブラの接続を外すときは、カブラ本体を持って外すこと。
- ・ ワイヤ ハーネスは引っ張らないこと。

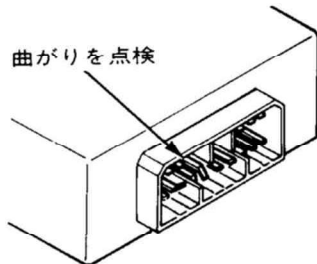


- ・カプラのビニールカバーは、完全にカプラを被い、めくれてないことを確認する。

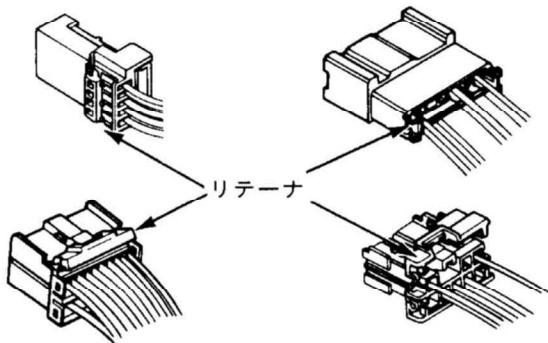


- ・カプラの接続前に端子の折れ曲がりがないこと。端子の出過ぎ、抜けがないこと。……を確認する。

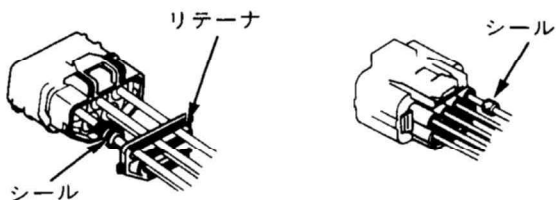
・端子の折れ、曲がりを見点検



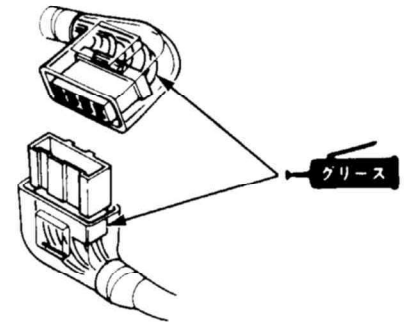
- ★リテーナやシールの外れがないことを確認する。下図にリテーナやシールの外れなど、異常な状態を示す。



防水カプラの例：



- ★絶縁グリスを使用しているカプラでは、グリスの量が不足したり、汚れている場合、清掃した後、絶縁グリスを充てんする。

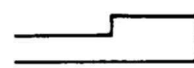


- ・カプラは、十分に差し込むこと。
- ・ロックが完全に固定されていることを確認すること。
- ・ワイヤハーネスの抜けがないことを確認すること。
- ・カプラの接続にはロックタブを押しながら接続するタイプとロックタブに触れないように接続するタイプがあるのでロックタブの形状をよく見きわめて作業すること。

ロックのツメの形状



ツメの先端がテーパ状のカプラは、ロックタブに触れないようにして接続する。

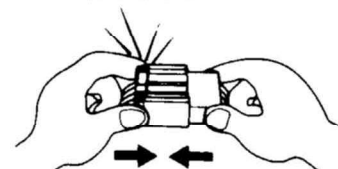


ツメの先端が角状のカプラは、ロックタブを押しつけて接続する。

- ・カプラを接続する場合は最後まで押し込み、ロック音(カッチン)で確実にロックしていることを確認する。



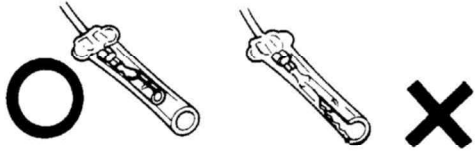
カッチン！



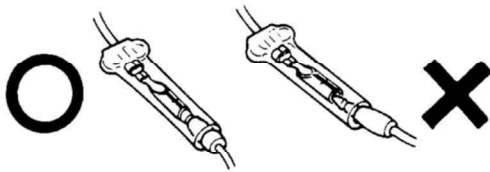
作業上の注意

電気系統

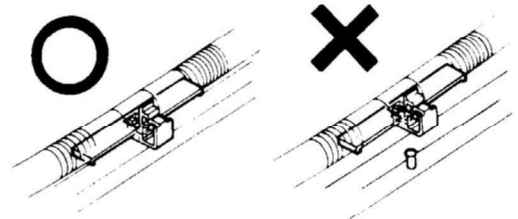
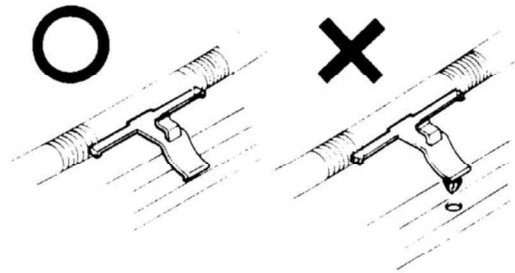
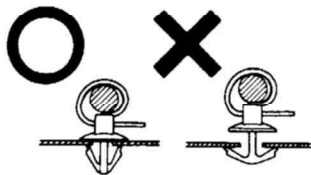
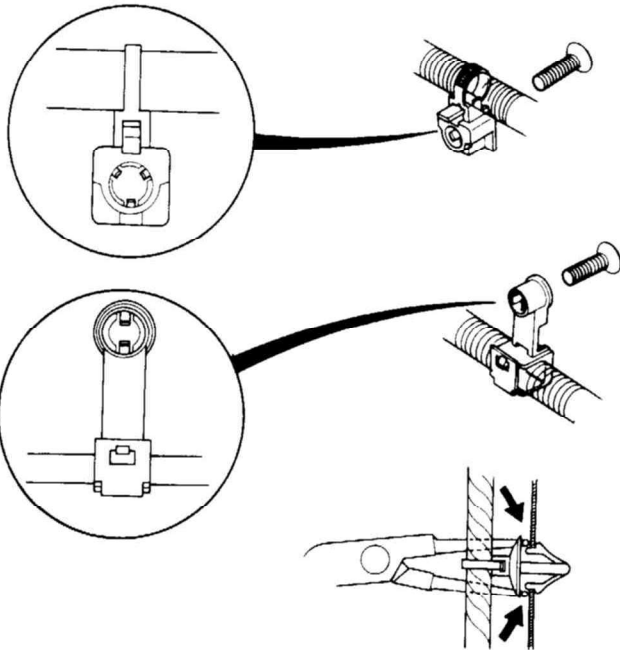
- ・コネクタの接続前に
カバーの破れがないこと。
メス端子の開き過ぎがないこと。……を確認する。



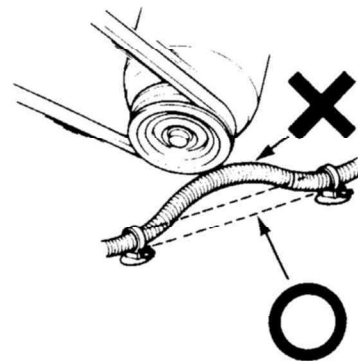
- ・コネクタは十分に差し込むこと。



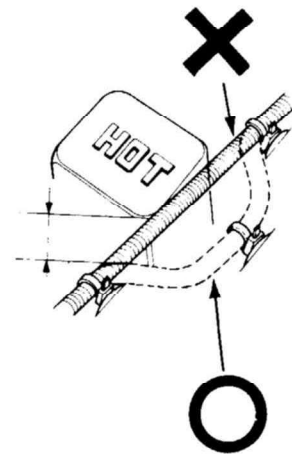
- ・ビニール カバーが完全に端子部を被っていることを確認すること。
- ・ビニール カバーの開口部は、上に向けないこと。
- ・ケーブル ストラップ、ハーネス バンド類は確実に取付けること。
- ・ロック タブを破損させないように注意して取外す。



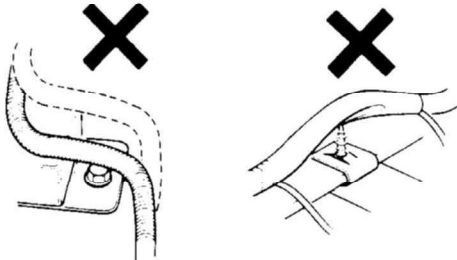
- ・ワイヤ ハーネスは回転部、可動部、振動部と接触しないようにクランプすること。



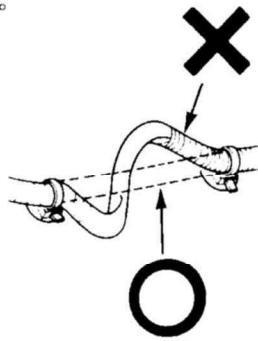
- ・ワイヤ ハーネスは高熱を出す部分と接触しないようにクランプすること。



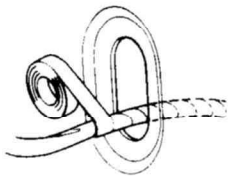
- ・ワイヤ ハーネスはボディ端部や鋭角部と接触しないように通すこと。
- ・ワイヤ ハーネスはボルトやスクリュの頭部、先端部に接触しないように通すこと。



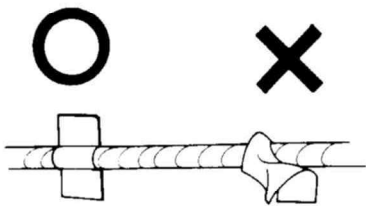
- ・ワイヤ ハーネスはたるみや無理な引っ張りがないようにすること。



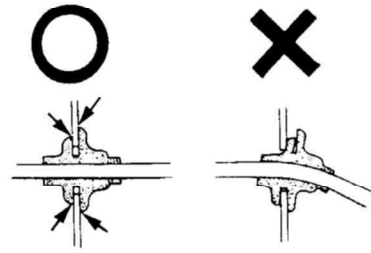
- ・ワイヤ ハーネスがどうしても端部や鋭角部と接触するような場合は、その個所をチューブやテープ等で保護すること。



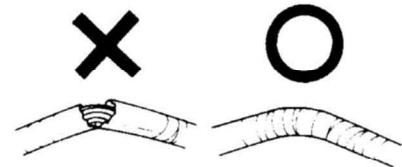
- ・プラスタは、錆や油の付着を除去してはがれのないように貼ること。



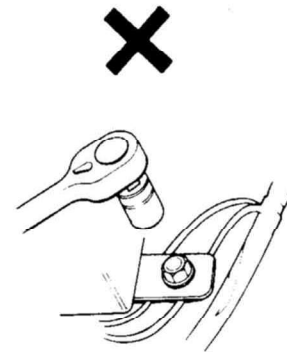
- ・ワイヤ ハーネスにグロメットがついている場合は、確実にセットし、矢印の個所にシール材を使用する。



- ・ワイヤ ハーネスの被覆を破らないこと。
- ・ワイヤ ハーネスが破れた場合は、ビニール テープを巻いて修正するか、交換すること。



- ・部品取付け時に、ワイヤ ハーネスを噛み込ませないようにすること。



- ・ワイヤ ハーネスはねじって取付けないこと。

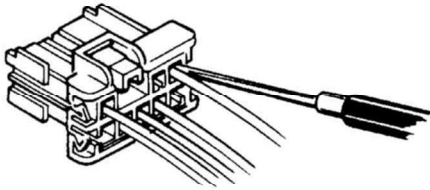
作業上の注意

電気系統

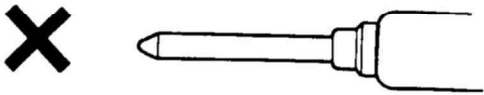
- ・テスト使用時は、テストの取扱説明書の説明を理解し、サービス マニュアルに従って作業すること。



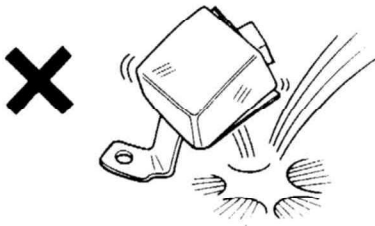
- ・テスト ハーネスを使用しない個所に、テストを用いてカプラ部を点検するときは、必ずワイヤ ハーネス側よりテスト棒を差し込むこと(防水カプラを除く)。



- ・テスト棒は先端の細いテーパ状のものを使用する。



- ・テスト棒を差し込む時、むりにねじ込まないこと。
- ・差し込んだテスト棒をむやみに動かさないこと。
- ・部品は落したり投げたりしないこと。



シンボル マーク

下記のシンボル マークは、このマニュアルを通して注意事項や、作業方法を示している。



：オイル塗布のこと



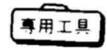
：ブレーキフルード塗布のこと



：ハンドバキュームポンプ使用のこと



：グリース塗布のこと



：専用工具使用のこと



：リジッドラック使用のこと



：危険作業



：重要作業



：要注意事項

- ①、②、③、.....
①、**②**、**③**、..... : 作業順序を示す

トルク：規定トルクで締付けのこと

略語

略語	
コンロッド	コネクティング ロッド
デフ	デファレンシャル
ACC	アクセサリ
A.C.G.	A.C.ジェネレータ
A/C	エア コンディショナ
Assy	アッセンブリ
ATT	アタッチメント
BAT	バッテリー
EACV	エレクトロニック エア コントロール バルブ
ECU	PGM-FI用エレクトロニック コント ロール ユニット
EX	エキゾースト
GND	アース
IG	イグニッション
IN	インテーク
INT	間欠
L.	左
L/C	ロック アップ クラッチ
MT	マニュアル トランスミッション
MTF	マニュアル トランスミッション フルード
PGM-FI	プログラムド フェーエル インジェクション (電子燃料噴射装置)
PCV	ポジティブ クランクケース ベンチレーション
PL	パイロット ライト
R.	右
SW	スイッチ
SOL.V	ソレノイド バルブ
SRS	運転席用シートベルト補助乗員保護装 置
TDC	上死点

